

小松の宝 全国へ発信

文化庁の日本遺産に認定された全国の自治体関係者が集う「日本遺産サミット in 小松」は二日目の十四日、小松市の県こまつ芸術劇場うららで分科会やステージ発表などを行い、閉幕した。サミットには二日間、約八千人が訪れ、各地域で受け継がれている遺産の今後の活用策などについて理解を深めた。

2日で8000人 日本遺産サミット閉幕

「石の文化」継承へ連携

分科会で5自治体、意見交換



石の文化について話し合われた第2分科会の様子＝小松市の県こまつ芸術劇場うららで

○…日本遺産のストーリーを生かした地域づくりに向け魅力を発信しよう
と、分科会には、小松市など「石の文化」を持つ全国五自治体の代表者が登壇した。

「大谷石」を特産とする宇都宮市、多くの「めがね橋」を築き石工の郷として知られる熊本県八代市などが参加。それぞれが資源の保全と活用法、文化の継承の仕方などを発表した。

座談会も行われ、地域活性化につながる石のブランド化についても話し合った。小松市の望月精司にぎわい交流部長は「石の文化を広めていくため、遺産認定受けた地域以外にもつながり、ネットワークをつくっていく」と提言した。

木遣り、獅子舞、輪踊り 安宅まつり再現

○…小松市の日本遺産に関わる祭りを紹介する「日本遺産&小松お祭りステージ」では、安宅まつりの三大催しの木遣り音頭、獅子舞、輪踊りなどが披露され、会場を盛り上げた。

江戸時代に北前船の船主から伝わったとされる木遣り音頭は曳船保存会が、独特の抑揚で太鼓の音に合わせて「ヨーイトコーナー」と息の合ったおはやしを響かせた。

宮獅子保存会は激しく舞う獅子舞に、棒振り役が勇ましく棒を振ったり跳び上がったりと軽やかな演技を見せた。関所をどり保存継承会は編みがさをかぶった赤じゅばん姿の女性が華麗に舞った。

獅子舞を披露する小松市安宅町の宮獅子保存会＝同市の県こまつ芸術劇場うららで



カンボジアから 文化財保全学ぶ

オンライン交流

○…サイエンスヒルズこまつでは、世界遺産「アンコール遺跡群」があるカンボジアのシエムリアップで保全を担う関係者と、小松市の石の文化財の研究に携わる金沢大環日本海域環境研究センターの塚脇真二教授らをオンラインでつなぎ、石の文化財の保全のノウハウなどを学ぶ交流が行われた。

会場では小松市の日本遺産を舞台に歌舞伎俳優の尾上右近さんが安宅海岸で獅子舞など伝統芸能を披露した特別映像も上映された。



カンボジアのアンコール遺跡群と中継つなぎ、石の文化財保全のノウハウについて話し合う塚脇真二教授(画面右)＝小松市のサイエンスヒルズこまつで